

『治安維持法一〇〇年―「新しい戦中」にしないために』発刊記念 治安維持法とは何だったのか その歴史と現在を考える

2025年
6月21日(土)13:30~16:30
全国教育文化会館
エデュカス地下ホール
参加費 700円

今年(2025年)は治安維持法の制定から100年。治安維持法は廃止されましたが、今も形を変えて生きているのではないのでしょうか。治安維持法の歴史と現在、学校教育でどのように取り上げられているのか、学び・交流しましょう。



- 記念講演「治安維持法は今も生きている」
荻野富士夫さん(小樽商科大学名誉教授)
- 高校授業実践報告「絵を描いただけで罪になるのか？」
伊藤和彦さん(名古屋市立高校教員)
- 教科書分析「治安維持法は教科書にどう記述されているか」
河合美喜夫さん(元都立高校教員)

主催： 歴史教育者協議会(歴教協) 大月書店

お問い合わせ 歴史教育者協議会 03-3947-5701

はじめに

第1章 治安維持法とは何だったのか

- 1 戦前の治安維持法体制——植民地朝鮮・台湾、「満洲国」における運用を視野に（荻野富士夫）
「コラム1 「大東亜治安体制」の構想（荻野富士夫）」
- 「コラム2 治安維持法関係史料の残り方と現況（荻野富士夫）」

第2章 治安維持法に抗した人びとを語り継ぐ——教育・思想の自由をめぐる

- 1 京都学連事件——治安維持法国内最初の適用事件（本庄 豊）
- 2 長野県「二・四事件」——「教員赤化事件」という攻撃に抗して（小平千文）
- 3 一五年戦争期の兵庫の「新興教育運動」から学び（田中隆夫）
- 4 「唯物論研究会」弾圧と周辺の人びと（黒川伊織）
- 5 村山俊太郎、ひでがめざした民主教育とそれへの弾圧（村山士郎）
- 6 北海道綴方教育連盟事件と生活図画事件（川嶋 均）
- 7 治安維持法下朝鮮の学生運動——光州事件と春川中学・常緑会事件（丸浜 昭）
- 8 エスペランチスト・長谷川テル——日中友好のかけはしとなって（西田千津・田辺 美）
「コラム3 戦争末期の庶民の言辞から日本社会を見る（丸浜 昭）」

第3章 治安維持法は今も生きている

- 1 戦後、治安維持法体制の断絶と連続（関原正裕）
- 2 権力犯罪を告発した「横浜事件」再審と国家賠償請求（山本志都）
「コラム4 特高官僚・思想検事の戦後（桜井千恵美）」
- 3 現代の治安維持法——特定秘密保護法・共謀罪法の成立（白神優理子）
- 4 安保三文書と改憲のねらい（山田 朗）
- 5 経済安全保障政策のねらいと現在（布施祐仁）
- 6 学問と教育の自由をめぐる攻防——統制と介入、抵抗の戦後八〇年（河合美喜大）

第4章 治安維持法はどう教えられているか

- 1 平和に向けて教員と生徒はどう語り合うか——治安維持法に関するある議論から（内田一樹）
 - 2 絵を描いただけで罪になるのか？——治安維持法の変遷に注目して（伊藤和彦）
 - 3 治安維持法は教科書にどのように記述されているか（河合美喜大）
- あとがき

資料 治安維持法と関連法

資料 治安維持法関連年表

注文書	
治安維持法一〇〇年	お名前
大月書店 文京区本郷2-27-16	ご住所
TEL 03-3813-4651	
FAX 03-3813-4656	電話番号
ご注文	